

創業150周年に寄せて

On 150th Anniversary of Toshiba Group



島田 太郎
SHIMADA Taro

代表取締役 社長執行役員 CEO
Representative Director
Corporate Officer, President and
Chief Executive Officer

2025年は、東芝グループが創業150周年を、そして技術論文誌 東芝レビューが80年目を迎える年です。その記念シリーズのトップメッセージを書くにあたり、過去の諸先輩の文章を読みました。どの文章にも、時代の最先端を目指し続ける強い意志と誇りを感じ、その伝統を引き継ぐことを大変榮譽に思います。

この伝統は、時代が変わっても全く変わらないと強く思っております。東芝グループ経営理念である、「人と、地球の、明日のために。」をベースに、時代に求められる技術開発を行うことこそが、“東芝の原点”かつ“東芝そのもの”なのだと思います。

近年、AIが加速度的に発展してきました。特にLLM（大規模言語モデル）が登場してからのAIの進歩には、目を見張るものがあります。一方で現在、AIの発展は、十分な電力供給がなくては成り立たなくなっています。しかし、エネルギー供給は、環境に優しいものでなければなりません。カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーを実現しながらAIの発展を支えるには、様々な技術開発が重要になります。人の暮らしを支えるインフラのデジタル化は必須であり、かつインフラから産み出される良質なデータは、AIの進展そのものを加速させます。現在のAIを見ていると、良質なデータの重要性は、かつてなく高まっているのであります。

またAIの進化は、人間の脳の研究と密接に絡んで発展しています。AIの発展は、意識や意思とは何かを問い始めます。実は、人間の行動のほとんどが、無意識に行われています。脳科学では意識とは、選択判断、短期記憶、そしてそれを一般化して長期記憶することにあるといわれています。AIの時代には、無意識な仕事はAIに置き換えられるかもしれません。常に意識を使った技術開発に努めなければいけません。

更に、量子技術の発展が見込まれています。量子技術は、あらゆる産業へと波及することが予想されます。量子技術の社会実装は、まだ初期段階であり、デジタル技術とのスムーズな接続が必要です。すなわち、アーキテクチャーを用意して、革新的な量子技術が、社会に次々と実装できるようにしなくてはなりません。正に、量子技術のChatGPTモーメントが必要なのであります。まだ世界で決まったものがなく、大きな可能性があります。技術は常に置き換えられ、必ずしも最も優れた技術が広まるわけではなく、実装が容易なことが重要であると考えます。

東芝グループは次の100年に向けても、変わることなく新しい技術で人類を豊かにしていきます。
人と、地球の、明日のために。